

# 浄土論

角 出 誠 堂

## (一)

大乗仏教では仏教の究極的な実践目的としての涅槃に積極的なはたらきを認め、入涅槃した無数の仏がそれぞれに無数の衆生を救済することを説くと共に、その仏の住まれる国であり、且つその化を成ずる浄土をも説く。

中でも浄土教に於ける浄土は衆生が住む娑婆世界以外に現に実在しているということ、いいかえれば浄土が現実的世界としての三界のすべてを超えているということ、は、浄土教の諸師を通じて説かれていくことである。

「往生論」を著して浄土の開闢をした世親は、撰大乗釈論に於いて、

三界集諦為行、三界苦諦為処、浄土非三界苦集所摂、故言出過三界行処  
と説くように三界は煩惱（集諦）を原因とし、煩惱によ

つて生ずる苦を結果とする世界であるが、浄土はそのような因縁の世界ではなく、その因縁の世界、即ち現実的世界全体を超越して、しかも常、楽、我、淨の四徳をそなえた無為涅槃界であることが知られる。これは浄土の本質であり、浄土の勝相のうち最も重要な性格をなすものといえる。

一方他面に多くの經典に於いて種々に莊嚴された浄土の叙述を見出すことが出来る。即ち、浄土三部經に説かれる極樂浄土の音楽等の莊嚴相や、世親の往生論に於いて説かれる三種（国土、仏、菩薩）二十九句の浄土莊嚴相などがそれである。従つて浄土はまた超三界という他面に莊嚴功德界であることが知られるのである。

## (二)

三種二十九句の莊嚴功德を具備する浄土の有的性格について「往生論」には、

彼無量寿仏国土莊嚴才一義諦妙境界相

と説かれるが、これは才一義諦たる真如法界、即ち先にみた無為涅槃を本質とする浄土の他面のすがた（相）であり、従つて莊嚴功德と無為涅槃とは異質のものである

ことを意味しない。更にまた「往生論」にとかれる浄土の在り方を論理ずけた曇鸞は「往生論註」に於て、浄土の性格と、

### 出有而有

と説く。この出有而有といわれる中の有は所謂三有（三界）を指すのであり、三有はあくまでも対象的のものを認識し価値判断する世界、即ち現実世界を意味する。そしてそのような因縁の外なる有、即ち三有を超えた相として浄土の実比を説くものである。これは、いいかえれば、三界を超えた有が三界たる有にかかわりをもち、現実流転の衆生界に働きかけようとする如来の大慈悲を意味するものである。しかして無為涅槃と莊嚴功德との両面を具備する浄土は、前者を前提として後者が成り立つものであるが、その両者は、

清浄意欲以為其（注、浄土を指す）体。依般若故得清浄。依大悲故有意欲。若離分別此事不成故。是無分別後智攝

といわれるように如来の清浄意欲（現実流転の衆生を救済せんとする慈悲）——願によつて統一されていることが

理解されるのである。従つてこゝに於て莊嚴功德相はその本質である無為涅槃とは不離一体のものであるということがいえ、その点で浄土相は單なる象徴的、形像的、表象的表現でいづくされるものではない。このことは、浄土の莊嚴功德相は衆生を救済するために方便的に説かれたことを意味するものではない。

### （三）

かくして浄土は救わるべき苦悩の衆生を予想するものであり、また苦悩の衆生にとつては有為の願行をおこす願往生心の対象として意義をもつものである。即ち、浄土教において主体となる人間は無限の可能性を開顯して仏陀となることが出来るというように高く評價された人間ではなくしてそのような可能性を包んでいるとしても、今はもう開顯する力がなくなり、限られた力しか持つていない人間である。「觀經」に説く下品下生であり、十惡五逆の愚人である。このように限界づけられた人間（凡夫）はそのまゝに放置されてあるならば、遂に救済され得ないことはいふ迄もない。従つてこゝに於て凡夫たる不完全な人間と救済者たる仏（絶対者）との断絶を

結びつけるものとして浄土（絶対性）が意義をもつものであり、この浄土は凡夫の願往生心の対象となるものである。

このように絶対的对象（浄土）を対象化するということは、大乘仏教の思想に於てはその論理構造は独自の形態をもつものであり、而も、限界のある人間（凡夫）を限りなく救済するという大乘仏教の完成されたすがたを見ることが出来るのである。

かくして浄土は現実世界を超越し、真実（無為涅槃——本質）と願心（如来の大悲と衆生の願往生心）とが相即する信仰の世界で、信仰者が常に生きている世界であるといえる。

## 「觀經に於ける三心釈の 史的研究」

田 原 正 英

三心とは 一般仏教では十信成就の 薩の発す所の三種の心を云う 浄土教に於ては 浄土往生のために起すべき三種の心を云う。これらの三心は各經典に説かれているけれどその代表的なものとして 一般經典には 大乘起信論 維摩經 浄土教では觀無量壽經にそれぞれ三心が説かれている。

大乘起信論に於ては

復次 信成就発心者 発何等心 略説有三种  
一者直心 正念真如法故 二者 深心樂集